～美里の議員も国際交流～

フィンランド大使との議員懇談会

9/8（金）於　美里町

9月8日フィンランドのユッカ・レイノ・シウコサーリ大使を美里町議会にお迎えし、議員との懇談を実施しました。

フィンランドは、童話ムーミンの故郷・サンタの住む村もあります。サウナの発祥地として、また、最近ではノキア（携帯電話会社）なども有名な国です。ちなみに北極回りで行けば、ヨーロッパの中で日本から最も近い国です。

懇談会は、特定非営利活動法人・川口フィンランド協会の米竹理事長の司会進行により、歓迎の挨拶を原田町長が、続いて大使の挨拶、その後、議員との懇談が行われました。

懇談の主な内容としては、①北欧は、高福祉・高負担と聞いているが、フィンランドの消費税は何パーセントで、どのような福祉サービスがあるのか、②森と湖の国フィンランドに行って、オーロラや白夜を見たい。サンタやムーミンにも会いたいが、大使お薦めの観光のベストシーズンは、いつか、③また要望として大使が役場玄関前に記念植樹されたブルーベリーの命名をお願いする等、終始和やかな雰囲気の中、懇談が行われました。

懇談風景

原田議長のお礼の挨拶では、最後にフィンランド語でヘイヘイ（バイバイ）、モイモイ（さようなら）と話したところ、大使が大きな声で笑い、その場が大いに和みました。

懇談・植樹の後、町長・議員との記念撮影が行われ、お別れの時が来て、皆でキートス（ありがとう）、モイモイ（さようなら）と大使の車を見送りました。

文教民生経済常任委員会
委員長　櫻沢　保

広域圏（こういきけん）

第３回定例会（９月25日（月）開催）

平成 28 年度広域圏の決算を認定

歳入総額　46億1,201万　518円
歳出総額　44億1,376万4,841円

臨時的経費の主なものは、新児玉分署建設、美里分署・神泉分署の耐震工事、本庄分署の新庁舎建設に向けた用地取得です。

歳入の主なものは、構成市町の負担金が大部分を占める30億5,818万２千円（66.3%）で、組合債６億6,880万円と合わせると全体の80.8%を占めます。

構成市町の負担金内訳	
本庄市	16億3,055万９千円
美里町	３億2,918万３千円
神川町	４億　908万４千円
上里町	６億8,935万６千円

歳出の主な内容は、下記のとおりです。

こだま聖苑	5,651万　523円
湯かっこ	7,315万7,032円
利根グリーンセンター	２億1,168万1,142円
小山川クリーンセンター	８億6,451万9,450円
埋立処分地設備費	938万8,872円
消防費	23億　476万6,662円
公債費	３億9,021万9,499円

平成 29 年度一般会計補正予算（第１号）

補正額　2,727万４千円
補正後の額　43億2,098万６千円

主な内容は、職員の異動等に伴うもののほか、旧児玉分署解体工事等の増によるものです。

監査委員の選任 再任

木村登志男 氏（本庄市）が再任されました

（美里町選出議員　原田敏夫・内田三郎）

大使の答え：消費税は24%、ベストシーズンは夏、記念樹の名はＳＩＮＩ（ＫＫＡ）（大使の大好きなお母さんの名前）だよー♪

ミムリンのつぶやき

知事と考える2025年問題

講師：上田清司 氏

児玉郡町議会議員前期研修会

8/2(水) 於 上里町

鳥の目・虫の目・魚の目、県政を進める上で上田知事が常に心掛けている事だそうです。

「鳥の目」は、大所高所から広い視野をもって物事全体を見つめ大局観を把握する目。「虫の目」は、複眼です。つまり「近づいて」さまざまな角度から物事を見、直面している課題や、解決すべきテーマについて、相手や周囲との関係にも気を配りながら、判断を行う目。「魚の目」は、潮の流れや干潮満潮という「流れ」を見失うなということで、時代の変化・潮流を感じ取るトレンドの目です。

埼玉県は人口が密集する大都市や郊外に点在する中小の都市もあれば過疎などの課題に取り組む中山間地域もあります。産業・農業・工業からサービス業までバラエティに富んでいて海がないことを除けば、まさに日本の縮図であると述べられました。

団塊の世代が75歳以上となる2025年にかけ、急激に高齢化が進むとともに、生産年齢人口の減少による活力の低下を課題として挙げ、これからは、地域を支える大切な産業を守る担い手としてシニアや女性の社会参画が重要になるそうです。

美里町でも推進しています元気なシニアを支える「健康長寿埼玉プロジェクト」を進め、女性の社会参画を進める「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を活用し、より一層スピード感をもってまちづくりを進めていかなければと感じました。

文教民生経済常任委員会
副委員長　大島輝雄

はとバス再建から得た教訓
～これからの自治体のあり方～

講師：株式会社はとバス
元代表取締役社長　宮端清次 氏

県町村議会議員研修会

10/19(木) 於 吉見町「フレサよしみ」

講師の宮端氏は、東京都庁の役人から倒産寸前の、はとバス社長に就任。社員に「会社を潰したくなかったら耐えて欲しい」と訴え、徹底した顧客サービスと社長以下全社員の賃金カットを断行、全社員1割、役員2割、社長3割カットを行いました。そして初年度で黒字化、わずか4年で累積を一掃し同社を再建されました。

講演では、はとバス再建時の失敗・挫折から得た教訓を「現状維持は破滅となる」と確信し、時代の環境に機敏に対応できないものは滅びると説明されました。また、現在は、問題が起きれば、それに対しての解決策に対処する能力が重要視されておりますが、これからは、解決策に加えてこの先何ヵ月後、何年後に起きるであろう問題を正しく予測することで、その問題解決に向かうという意味で「問題発見能力」が極めて重要であるとのことでした。

さらに、社員の意識改革を行うには、まず経営者は現場をよく見て、よく知る、その上で自分が変わることで、社員が変わる。それによって、お客様へのサービスも行き届き、結果、お客様第一主義となり、お客様から信頼と支持を得られ、経営状態も良くなるとのことでありました。

このことは、自治体の住民サービスのあり方も同様であり、わが町の住民サービスの質の向上について考えさせられる研修会でした。

総務建設常任委員会
委員長　塩原　浩

県内の23町村、282人の議員が集まって年1回の研修会が行われました。